

公民館ボランティアの意味環境

新潟大学教育人間科学部 齋藤 勉

生涯学習とボランティア活動の関係について、生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」（1992年）は、3つの観点を示している。

- ① ボランティア活動そのものが自己開発・自己実現につながる。
- ② ボランティア活動に必要な知識・技術を習得する学習、あるいは学習の成果を生かし、深める実践としてのボランティア活動。
- ③ 人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって、生涯学習の振興が一層図られる。

この答申は、生涯学習からボランティア活動へ、ボランティア活動から生涯学習の振興へという循環を提案している。この答申以降、学校支援ボランティア、公民館ボランティア、図書館ボランティアなどが活発に展開されるようになってきている。また、教育行政においても、例えば、新潟市教育委員会では、第24期社会教育委員会議が「生涯学習ボランティアについて（建議）」（平成14年3月）を出すに至っている。（1）

この小論では、公民館ボランティアの実態と、その意味環境の変容について述べることにしたい。

I 新潟市における公民館ボランティアの実態

新潟市には、現在、11館の公民館が設置されているので、館名、講座・事業名、協力の内容、有償・無償、募集方法、保険加入から、公民館ボランティアの実態を示すことにする。（平成13年12月現在）（2）

館名	講座・事業名	協力の内容	有償・無償	募集方法	保険加入
中央	ユースセミナー	講座の企画と講師の紹介	無償	公募と前年の受講生	なし
	父親学級	講座の企画と講師の紹介		前年の受講生	なし
	公民館まつり	まつりの企画と当日の運営		公募と協議会の推薦	当日は加入 なし
	中央公民館文化祭	文化祭の企画とすべて		自主運営	

	子育てサークル交流会	の運営 交流会の企画と運営		各サークル	保育は加入
中	児童期家庭教育学級 男女共同参画セミナー 子育てひろば	講座の企画、運営 " 親子遊び指導者とアシ スタント (主任児童委員を主と した民生委員)	企画は無償 講座中有償 有償	関心のある人に 直接依頼 主任児童委員の 自主的活動	なし
坂井 輪	幼児期家庭教育学級 小学生期 " 子育てサークル研修会 女性学セミナー セカンドライフセミナー ユースセミナー シルバーカレッジⅠ・Ⅱ 青少年生き生き事業 利用者団体連絡協議会	講座の企画、運営 " " " , 情報誌制作 事業の企画、運営、情報 誌制作 研修会	無償	前年度受講生か ら公募等	なし
青山	幼児期家庭教育学級 小学生期 " 思春期 " 女性学セミナー 絵本ボランティア にいがた文化村さかいわ	講座の企画、運営 " " " 月に一回絵本の整理、修 理 H14年度5周年記念誌 編集、街をアートでいっ ぱいにしよう(アンデパ ンダン方式)、写生大会	無償 無償	公募 随時声かけ	保育のみ加 入 なし なし
石山	女性セミナー 子育てふれあいランド	講座の企画、運営 事業の企画、運営 (石山地区の親子遊び 指導者4人) 自主グループの協力(読	無償 有償 無償	企画委員経験者 や前年度受講生 に依頼・公募 協力依頼 "	なし

		み聞かせ, 人形劇等)			
西	女性セミナー 自然環境講座番外編 まなび屋 トライアングル 手話交流会	講座の企画 保安林を探検する会を企画・運営 少年の居場所作りのフリースクール企画・運営 3者交流のためのキャンプの企画, 運営	無償	ゆりかご受講生の自主グループに依頼 講座受講生から募集 大学も限定せず 高校生で可能幅広く随時受付 学生に声がけ	なし 加入
鳥屋野	家庭教育学級 ・ ゆりかご ・ 育ち合い ・ 思春期 女性セミナー 子育てネットワーク	企画に入ってもらおう。当日の司会, 準備の手伝い 企画委員。講師として1回参加 企画員3人選んで司会, 運営	無償	受講生に声をかける。	なし
北	女性セミナー 寺子屋 (11月開始)	企画, 当日の運営, 記録誌の編集 企画, 当日の運営	無償 講座中有償 無償	受講生に声をかける。 学生の自主	なし
東	子育てサロン (東) 共育 (ともだち) ひろば (大形)	子育てサポーター, 絵本の読み聞かせ	無償	12年度に声をかけて登録	ボランティア保険 (任意)
曾野木	家庭教育学級 女性セミナー 市民学級 文化祭等	企画・運営 " " "	無償	PTA 推薦 受講生等に声をかける。 実行委員会	一部加入 なし 一部加入 一部加入
関屋	親と子のひろば 絵本のひろば 幼児時家庭教育学級 子育てネットまつぼっくり 女性セミナー	講師の補助, 親子の世話 企画, 運営, 資料作成 講師の補助, 親子の世話 企画, 運営	無償 有償1無償3 有償1無償3 有償1無償1 無償		なし なし

Ⅱ 公民館ボランティアの意味環境

1 有償か無償かから、非営利へ

「有償・無償」の覧をみるなら、「無償」のもの、「有償」のもの、「有償1、無償3」のもの、「無償、講座中は有償」のものがある。これは、有償か無償かの議論から、非営利（non-profit）へと議論が展開してきた結果である。ボランティア活動の継続性や必要経費の問題が非営利へと考え方を変容させてきた。

この例を、保育ボランティアで見ることにする。

新潟市における保育のあゆみ

- ・昭和49年
社会教育審議会建議～乳幼児期における家庭教育の振興方策について
- ・昭和50年
建議をうけて専門家と職員によるプロジェクトチームの発足
乳児期家庭教育学級（ゆりかご）2学級開始～保育は愛育会（助産婦の会）の協力
～平成5年までは中央公民館だけで開催
- ・昭和51～53年
2学級でゆりかご学級継続～保育はボランティア
- ・昭和54年
ゆりかご1学級、幼児をもつ母親対象の家庭教育講座
～昭和60年まではゆりかご1学級だけ開設～
保育ボランティア自主グループ誕生（第一木馬の会、バンビの会）
- ・昭和55年
保育室開設
保育室運営研修会開始、平成5年度まで継続
- ・昭和57年
保育ボランティア講座開始～昭和59年まで継続、昭和60年以降は保育

ボランティア研修会として平成4年まで継続

- ・昭和61年

ゆりかご4学級開設～年間4期で全対象者に対応

働く親の家庭教育学級～昭和63年まで継続

2歳児と親の遊びの集い～平成7年まで継続，以降は「親子遊び」として継続

- ・平成4年

保育者養成講座開始

- ・平成5年

父親学級開始（社会教育課）平成6年からは中央公民館で実施

保育者謝礼予算化～謝礼1回当たり2,100円

保育者研修会開始

- ・平成6年

ゆりかご学級、地区館でも開始～坂井輪，鳥屋野，平成13年度は7館で開設

子育てサークル交流集会開始

- ・平成7年

ゆりかご学級日曜版開始

- ・平成11年

保育者養成講座は女性センターの主催に

昭和50（1975）年から保育ボランティアがスタートし、平成5（1993）年から保育者謝礼の予算化が行われたことがわかる。昭和57（1982）年から保育ボランティア講座が開設されて、ボランティアのレベルアップが図られたこともわかる。謝礼は、1回当たり2,100円で、市全体で340万円が予算化されている。

保育ボランティアの養成を通じて、ボランティア活動の継続性を維持するために予算化が図られたものである。これは、無償から有償へというよりも、非営利というボランタリーセクターを認めたものであると解釈することができる。ボランティア活動の意味環境が変容したのである。

2 支援 (support) とは

生涯学習審議会答申文にも出てくる「支援」という用語は、援助 (aid)、手助け (help)、補助 (assist) などの類似語があり、また学習支援、意思決定支援、事業支援などと多用されている。そのこともあって、何をもって支援と規定するのかは明確ではない。

公民館ボランティアの支援にはどのようなものがあるのでしょうか。

- ・ 講座の企画
 - ・ 講師の紹介、補助
 - ・ まつりの企画、文化祭の企画
 - ・ 当日の運営、すべての運営
 - ・ 交流会の企画
 - ・ 交流会の運営
 - ・ 親子遊びの指導者とアシスタント
 - ・ 情報誌の制作、記念誌編集
 - ・ 研修会
 - ・ 絵本の整理と修理
 - ・ フリースクールの企画
 - ・ フリースクールの運営
 - ・ キャンプの企画
 - ・ キャンプの運営
 - ・ 司会
 - ・ 準備の手伝い
 - ・ サポート (子育て)
 - ・ 資料作成
- など。

公民館ボランティアの活動は、「企画」と「運営」が主なものである。公民館には、社会教育主事や公民館主事が配置されているのに、公民館ボランティアをなぜ必要としているのであろうか。運営面は、人手が不足していることで、了解できる。しかしながら、専門職である社会教育主事が配置されているのに、企画面でボランティアを必要としているのはなぜであろうか。これは、学校には教員が配置されているのに、ボランティアを必要としていることと似た問題があるのだらう。

「すくすく子育てセミナー企画会議」(平成13年度幼児期家庭教育学校)の日程は、次のようになっている。

- ・ 1回目 1月15日(月) 企画委員顔合わせ、テーマ、内容について
10:00～ 参加人数、保育定員について
- ・ 2回目 1月下旬 テーマ、内容、プログラム検討
- ・ 3回目 2月 プログラム検討、講師検討
- ・ 4回目 2月 //
- ・ 5回目 3月 プログラム決定、講師決定
広報について、全体の流れについて

企画委員には、平成11年度、12年度の幼児期家庭教育学級の受講生がなっていることからすると、「テーマ」「内容」「プログラム」「講師」などについて、受講生のニーズを生かしたものにするためであろう。企画の意思決定を社会教育主事だけでするのではなく、企画委員を含めて行うことで、企画委員からの情報の提供、学習状況の客観化、受講生のニーズの明確化を図っているのである。

公民館の社会教育主事の自律的な意思決定を尊重しながら、公民館ボランティアは社会教育主事を支援しているのである。ボランティアには、ケアリング力が求められることになる。原理的には、ケアリングと支援の現実形態がボランティア活動ということになる。だが、「ケアリング」「支援」「ボランティア活動」の関係は、今後も検討するべき課題である。

註

(1) 第24期社会教育委員会議建議「生涯学習ボランティアについて」(新潟市教育委員会)

1 今、なぜ生涯学習ボランティアか

(1) 生涯学習とボランティア

生涯学習とボランティア活動の関係について、生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」(1992年)は、3つの観点を示している。

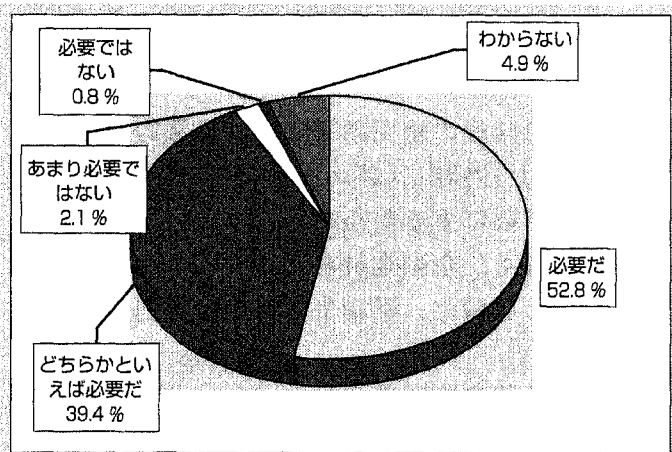
- ① ボランティア活動そのものが自己開発、自己実現につながる。
- ② ボランティア活動に必要な知識・技術を習得する学習、あるいは学習の成果を生かし、深める実践としてのボランティア活動。
- ③ 人々の生涯学習を支援するボランティア活動によって、生涯学習の振興が一層図られる。

このように答申は、生涯学習からボランティア活動へ、ボランティア活動から生涯学習の振興へ、という生涯学習とボランティア活動の循環型生涯学習社会を示唆している。

一方、市民は、生活水準の向上や自由時間の増大により、多様な学習機会

を求めてきており、学習した知識や技術を社会に還元するためのボランティア活動を生涯学習の一環としてとらえ、活用する場を求める傾向になっている（図1、表1参照）。

図1【社会的活動の必要度】



(n=1060)

表1【今後参加したい社会的活動】（複数回答—性別）

(n=691) (単位: %)

	男性	女性	全体
地域を活性化する活動	51.8	25.8	37.0
青少年・子どもの健全育成活動	29.4	24.0	26.3
障害者・高齢者などの障害者・高齢者福祉にかかわる活動	22.4	50.5	38.4
文化・芸術・スポーツ振興活動	47.5	44.9	46.0
自然環境保護・環境保全活動	41.5	26.0	32.7
人権擁護活動	3.7	4.1	3.9
国際交流活動	13.0	14.8	14.0
専門性を生かした指導者活動	10.0	7.9	8.8
防犯・防災・交通安全活動	14.7	3.3	8.2
災害救援活動	8.4	3.3	5.5
その他	2.3	2.3	2.3

※資料：生涯学習に関する市民の意識調査報告書（H12年3月・新潟市教育委員会）

(2) 生涯学習ボランティアの必要性

ボランティア活動は、一面ではさまざまな相互の触れ合いの中で、教えかつ学ぶという相互学習の機能を持っている。ボランティア活動に参加することによって自らの知的・精神的世界を広げ、生きがい意識を高めることが期待される。

ボランティア活動について多くの市民は、楽しみ、喜び、生きがい、健康、

自己実現、社会参加、ライフプラン、地域づくりという言葉で、活動のキーワードを表現している。個人の学習成果や経験、知識や技術が社会に還元される喜びととらえることができる。

また、実際にボランティア活動に参加している市民は、社会とつながって楽しく活動したい、自分もまた成長したい、時間ができたから・好きだから何かをやってみたいという動機でスタートし、個人やグループで継続的な活動をしている。

現代社会は、情報化、国際化、高齢化、核家族化、少子化、科学技術の高度化、価値観の多様化などにより、さまざまな必要課題が生じ、それらに対応するための生涯学習が必要になってきている。

そこで行政は、学習機会の提供のみならず、ボランティア活動が生涯学習の成果を生かし深めていく活動として、また、その学習成果を地域社会に生かす重要な活動としてとらえ、ボランティア活動の推進に努める必要がある。そのため生涯学習とボランティア活動の関係について、答申が述べている3つの観点に基づいて、あらゆる市民層を対象に社会教育、家庭教育、学校教育、スポーツ、芸術・文化の振興を通して市民のボランティア活動への参加が促されるような学習活動の支援と、社会的自己実現の場づくりのための学習環境を整備することが急務である。

(3) 生涯学習ボランティアのとらえ方

「自分ができるところで、できることを、お互い負担にならないようにやる活動」「やったことによってお互い楽しめる活動」「生涯学習そのもの、自分の意思に基づいてやる活動」など、ボランティア活動についての考え方は、種々様々であるが、学習の成果を生かすボランティア活動・生涯学習を支援するボランティア活動として、日常的で生きがいのもてる楽しい活動としてとらえられている。

一方、当委員会ではボランティア活動は「有償か無償か」「営利か非営利か」「自発性か他律性か」ということについて現実に即して議論をした。

かつてボランティア活動は、自発的意思に基づき手弁当で無償のものと考えられ、活動もまたそのように行われていた。今でも無償という考え方もあるが、ボランティア活動を維持し拡充を図るためには資金が必要である。ボランティア活動にかかわっている人の意見も無償・有償については、無償を原則としながらも活動によってはケース・バイ・ケースであり、個人や組織で継続的に活動するには資金は必要なことを訴えている。

そこで当委員会では、ボランティア活動は非営利を旨とする活動ととらえた。また、自発的意思に基づいた活動ではあるが、生涯学習としてのボランティア活動の一層の拡充を図るためには、活動に必要な経費や交通費などを供すことはボランティア活動の本旨を損なうものではなく、おおかたの同意が得られるものという認識にいたった。

このことから、生涯学習ボランティアのとらえ方を次のように提言する。

自発的意思に基づき、生涯学習の指導・助言・援助・支援者として参加・参画し、非営利を旨として活動する市民

2 活動の種類とその在り方

(1) 新潟市で行われている生涯学習ボランティアの活動

新潟市では、現在次のような生涯学習ボランティアの活動が行われている。

① 社会教育施設

- ・図書館…「読みきかせ・おはなし」「排架・書架整理」「本の補修」など。
- ・公民館…「子育てサークル支援のための保育ボランティア」「セミナー・講座などの企画および運営」など。
- ・大畑少年センター…「各種主催事業でのボランティア（中学・高校生）の活用」
- ・万代市民会館・青年の家…「各種主催事業でのボランティアの活用」
- ・美術館、水族館など…「展示ボランティア」など。

② 学校…「学習支援ボランティア」「ゲストティーチャー」

③ その他…「生涯学習パートナー」

(2) 具体的活動から見える問題点

当委員会議では、3人ボランティアの方を迎え、実際に行っている生涯学習ボランティアの活動内容を聞く機会を持った。それぞれの活動の中で感じたという問題点を以下にまとめてみた。

- ① 読みきかせボランティア：公民館主催事業「子どもと読書講座」の受講後自主グループとして活動。現在は個人で活動中。
 - ・行政は人を育てる場と機会を一層充実し、生涯学習を推進するために活用してほしい。
 - ・行政がやるべき仕事とボランティアがやる仕事を明確にして、共通理解をもつ。
 - ・何かを提供したい人（団体）と、必要としている人（団体）をつなぐコーディネート役を行政に担ってもらいたい。
- ② 保育者：公民館や女性センターの主催事業において保育者として活動。一方、子育てグループ支援のため保育ボランティアとして活動。
 - ・公民館等の事業の保育がボランティアから保育者制度へ移行したことにより、「無償から有償」へ「無資格から有資格」へと変わり「定年制」もとられた。自分の活動の中で戸惑いを感じた。行政と保育者の話合の場がほしかった。
- ③ こども体験学習推進事業（青少年課主催事業）に参加した学生ボランティア：教育実習時にこどもの実態が把握できず、つらい思いをしたことなどもあり、学校外のこどもの様子が知りたくて参加。
 - ・事業に関し、どこまでかかわればいいのか、事前の共通理解がほしかった。
 - ・「ボランティアとしてどうあるべきか」という指針を自分としてもたなければならない。
 - ・ボランティアをしていろいろな人との出会いがあつて良かった。

以上をふまえ、生涯学習ボランティア活動に対してわれわれが共通理解をもつべき事項については、次のように考える。

「だれでも、いつでも、どこでも」参加できることが基本であるが、資格が要求される場合もある。

- ① 有資格か無資格か。
- ② ボランティアをしたい人と求めている人をどうつなげるか。
- ③ ボランティアの在り方を明確にする。

(3) ボランティアの在り方

生涯学習ボランティア活動を2つの観点から分け、それぞれの在り方について考えてみる。

① 施設ボランティア

施設の維持・管理に役立ち、円滑に運営するために必要である。したがって施設を拠点として、施設とのかかわりの中で生涯学習をする人を援助する。つまり、施設を利用して学習する人に、どうサービスするかが問われる。

施設はいつも利用する人に開かれていなければならない。また、施設とボランティアはよきパートナーでなければならないが、決して職員の手不足を補うものであってはならない。すなわち、施設がやるべき仕事とボランティアがやる仕事を明確にし、共通理解をもって事業を行うものでなければならない。

② グループ・団体、個人などの生涯学習を支援するボランティア

講座などを受講した後、知識・技術の向上を図るために自主グループを作って研鑽している人たちがいる。その人たちが新しく学びたい人たちのために、自ら学んできたことや体験したことを、自分のできる範囲で学習の成果として社会に還元している。

これらのボランティア活動が活発に行われることで、より多くの学習需要が生じて、生涯学習がより活性化する潤滑油となる。

いずれにしても、ボランティア活動を推進していくために必要なことは、次のことである。

- ① ボランティアはボランティアというプロフェッションであると自覚すること。「時間を守る。約束を守る。秘密を守る。」
- ② 「だれでも、いつでも、どこでも、どんなに小さなことでも、できるときに、できることを」をボランティアの基本精神ととらえるならば、市民一人ひとりがボランティアであって、それを「いきいきと生活できる地域づくり、まちづくり」に生かすことができる仕組みをつくる。
- ③ ボランティアは事業に対してどこまでかかわればいいのか、どこまで踏み込んでいいのかを明確にする。
- ④ 人材の育成・確保、情報の収集・発信、ボランティア同志の交流拠点となるセンターの設置、ネットワーク化など、ボランティア活動の推進体制を確立する。

3 施策の具体的展開

(1) 生涯学習ボランティア活動への理解の促進

- ① 公民館、図書館、美術館、学校などの各施設で、ボランティアに関する情報提供、情報収集を行う。
- ② ホームページなどに生涯学習ボランティア活動の情報を積極的に掲載する。
- ③ 生涯学習ボランティア活動に関するパンフレットの作成と配布を行う。

(2) 生涯学習ボランティア活動への参加者の育成

- ① コーディネーターなどのリーダー育成・活用・研修を行う。
- ② 活動内容に応じた体験発表会を行う。
- ③ ボランティアリーダーのネットワーク化を図る。

(3) 活動しやすい環境づくり

- ① ボランティア活動保険の情報提供。
- ② 公民館、学校などを地域活動の拠点として整備する。
- ③ 人材リストの整備を行う。
ア 生涯学習センターでは、リーダーの人材リストの整備を行う。
イ 各施設では、ボランティアの人材リストの整備を行う。
- ④ 職員の意識啓発を行う。

- (2) 資料提供は、新潟市中央公民館長・今井昭友からのものである。感謝したい。